

# 森林×ACTチャレンジ2024 受賞者の取組概要

応募総数 50件（森林づくり部門 43件、J-クレジット部門 7件）のうち12件の受賞者を選定しました。受賞者12件の取組内容の概要については以下のとおりです。（【 】内の数値はCO<sub>2</sub>吸収量になります）  
【グランプリ 1件、優秀賞 11件（森林づくり部門 8件、J-クレジット部門 3件）】  
※今年度のグランプリは、森林づくり部門から選定されました。

## グランプリ（農林水産大臣賞）

### 特定非営利活動法人 ちば森づくりの会

- ・森林ボランティア団体として、地元行政や森林組合と連携し、所有者が管理できない民有林まで活動の対象とし、施業計画策定のもと、森林整備を計画的・継続的に実施。
- ・間伐材の出荷やイベントでの活用など資源の循環利用に加え、風倒木整理地での植樹や自然観察会の開催など都市圏の住民や子供達に森林への理解を深めてもらう取組を実施。
- ・森林づくりを通じて、多様な動植物の生息の場が確保されるなど生物多様性保全にも貢献。

【34t-CO<sub>2</sub>】

## 優秀賞（林野庁長官賞）

### 森林づくり部門

#### 株式会社 大林組

木造推進に繋がる再生林に向け、所有林を活用した皆伐・植栽に加え、人工光による苗木生産技術を開発。希少種に配慮した森林管理を通じ、地域住民の啓発・交流の場を提供。【74t-CO<sub>2</sub>】

#### 鹿島建設株式会社

CLTパネルを採用した新たなユニット化工法を適用し、社有林材を活用した研修施設を建築。また、社有林において林業と生物多様性保全の両立を目指したゾーニングを行い、管理経営。【75t-CO<sub>2</sub>】

#### サンデン株式会社

「生物多様性が向上する事業所の森」を目指し、森林の育成・モニタリングを定期的の実施するとともに、小学校と連携し、森林整備と生物多様性の関連を伝えるイベントを開催。【6t-CO<sub>2</sub>】

## サントリーホールディングス株式会社

全国24か所(※)に設定した「天然水の森」において、地元関係者等と連携し、森林整備と生物多様性保全の取組を実施。間伐木は「育林材」として地元の学校や公共施設等で活用。【60t-CO<sub>2</sub>】

(※申請後、2か所増え、8月末時点で26箇所)

## 四国苗販売株式会社

経営意欲の低下等から手付かずの森林を取得し、伐期を迎えた森林については皆伐し100%再造林を実施。育苗・育林事業で地域雇用を創出するとともに技能実習生の教育にも注力。【312t-CO<sub>2</sub>】

## 生活協同組合コープしが

地域の生産森林組合と協定を締結し、継続的な森林整備の費用支援と職員による下刈り、間伐等の取組を実施。また、組合員参加の森の役割を学ぶ森林整備の体験学習等を開催。【173t-CO<sub>2</sub>】

## 株式会社ツムラ

高知県等と協定を締結し、「土佐ツムラの森」において継続的な森林整備の支援を行うとともに、地元中学校に対し薬用植物の収穫体験を通じて自然環境を学ぶ教育支援活動を実施。【28t-CO<sub>2</sub>】

## 野村不動産ホールディングス株式会社

奥多摩町と協定を締結し「つなぐ森」として森づくりの場を創出。地元林業事業者や製材工場等と連携したサプライチェーンの構築や木材生産と生物多様性の共生を図る施業を実施。【7t-CO<sub>2</sub>】

### J-クレジット部門

(※J-クレジット部門は共同応募)

## 株式会社 滋賀銀行／金勝生産森林組合

購入したクレジットは「びわ湖マラソン」等の大会運営によって排出されるCO<sub>2</sub>のオフセットに活用。クレジット収益は琵琶湖の水源となる森林において動植物にも配慮した整備に活用。【50t-CO<sub>2</sub>】

## ダンロップフェニックストーナメント大会事務局／宮崎県／株式会社ExRoad／

男子プロゴルフツアーの開催にあたり、大会協賛企業からの協賛金を原資に大会運営で排出されるCO<sub>2</sub>の一部をオフセットするスキームを構築。クレジット収益は県有林の整備に活用。【1t-CO<sub>2</sub>】

## ヤベホーム株式会社／対馬市（長崎県）

クレジットの創出者と購入者が互いのメリットを発信しながら協力して長崎の森林を守る協議会の会員として継続的に活動。クレジット収益はツシヤママネコと共生できる森林づくりに活用。【28t-CO<sub>2</sub>】